

# スト破り助役機関士の導入を粉碎して 燃料列車を実力で阻止する！



81.3.5

No. 680

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
電話三九三五(六)・三九三六(局内)三二〇七

## ついに国労の仲間(千葉地本)列車掛(七)決起

全組合員の皆さん、全国の闘う仲間の皆さん。ここに、三月決戦ストライキ第三日目(三月四日)の闘いをかぎりないよろこびと感動をもって報告する。  
ついに、国労千葉地本の仲間がわが動労千葉の闘いに呼応して起ち上った。われわれは、国鉄当局のスト破り助役機関士と動労「本部」派組合員を使ったジェット燃料列車の強行を完全に粉碎し、ストライキを防衛・貫徹した。  
国労千葉の仲間の決起は、われわれに、百倍・千倍の勇氣とよろこびと感動を与えた。  
全組合員の皆さん、わが動労千葉の三月決戦ストライキの正義性と正当性に一層自信と確信を深め団結をさらに打ち固め、当局・権力・革マル分子一体となった弾圧・介入攻撃を粉碎して断固としてストライキを貫徹しよう。

### 成田拠点の闘い

国労千葉地本、  
B変仕業には応じな<sup>ら</sup>ず  
列車掛の乗務を拒否 } 決定(3/3)

成田拠点での決戦スト第三日目の闘いは、成田駅午前三時三十分発幕張行き五四八四列車での闘いから始まった。この列車は、千葉ルート京葉基地からジェット燃料を運ぶからのタンク車の回送列車だ。佐倉の担当乗務員がストライキに入っているため、スト破り助役機関士が乗り込んだ。あとは列車掛が乗れば運転出来るのだが……。

一方、国労千葉地本は、三日夕刻国労本部とも協議の上で、「助役機関士では、安全が保てない」として、ジェット燃料列車への列車掛(国労組合員)の乗務を拒否し、②動労千葉のストライキに対するスト破りとなるB変仕業には応じない、ことを地本執行委員会に決定し、国鉄当局に通告したのである。

こうして成田駅発の五四八四列車は、わが成田支部の動員者と国労千葉地本一体となった抵抗と抗議の中を二時間以上も遅れて発車。

つづいて、成田駅午前四時四八分発の北鹿島行五五八一列車。この列車もわれわれの抗議と抵抗の中を助役機関士が乗り込み、やっと動き出す。

この二本の列車に対するわれわれと国労の仲間の抗議の闘いによって、成田駅構内はすでに列車の発着が乱れ出し、三本目の成田駅五時五四分発北鹿島行の五五六一

スト破り助役機関士導入を完全に粉碎  
ストライキを防衛・貫徹す

こうして成田拠点におけるストライキは、国鉄当局がなにがなんでも助役機関士を導入し、燃料列車を動かす強行策は、わが動労千葉の闘いに相呼応した国労千葉の列車掛の決起によって、完全に粉碎されたのである。

このように、四日は、ジェット燃料列車七本(鹿島ルート五本、千葉ルート二本)のうち、五五六

列車が土屋基地から引き出すことができない。この列車は、鹿島基地からジェット燃料を運ぶからのタンク車の回送列車だ。所定より一時間以上もたった午前七時過ぎ成田駅三番線にやっと到着。国労の列車掛が、地本指令に従って、敢然と乗務を拒否。このとき以後五五六一列車は、助役機関士が乗ったものの列車掛が乗務を拒否したため、成田駅三番線に約十時間以上にわたって止まったままとなったのである。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ /

# 本日 急行の特急の指先が突入

二列車のただ一本のみをかううじて動かしたのみであった。それとでも、反対同盟や支援共闘の仲間の沿線各駅(滑川、久住、成田)での闘いによって佐原駅に三時間も立ち往生するなど、まさに、満身そういの状態でやっとたどりついたといったあんばいなのである。かくして、ストライキ第三日目(3/4)の闘いも大勝利のうち

に貫徹され、当局と、その唯一の  
柔順なスト破り先兵たる動労「本

部」派は、ますます追いつめられ  
ていったのである。

### 佐倉拠点の闘い

局・公安の手厚い保護で  
スト破りに協力する「本部」派

佐倉拠点では、「本部」派の機  
関士と助役機関士のスト破りに対  
する怒りの糾弾行動が展開される。  
まず、佐倉駅午前八時十二分発  
DL機関車三重連の五五六三列車  
での闘いからはじまる。この三重

連の最先頭車には、スト破り助役  
機関士二人が乗り込む。三両目が  
「本部」派の機関士だ。  
当直助役の点呼に対し、激しく  
追及、抗議の声がとぶ。  
庁舎前では、八五名の佐倉支部

の組合員がスト破りに対する怒り  
のシブレビコールをたたきつけ  
る中を、約六十名の公安・局課員  
に手厚く保護されてスト破り助役  
機関士と「本部」派機関士が当直  
室から機関車に向かう。  
しかしこうして、佐倉機関区を  
出庫したスト破り機関車は、結局  
は、成田駅でストップしてしまい  
全く動くことができなかつたので  
ある。  
こうして、成田・佐倉両拠点で  
の四日の闘いは、大きな成果を上  
げたのである。

スト破り分子の  
1日

① 「本部」派裏切り分子が出動してくると、さっそく局の白腕が構内入口で出むかえ、護衛する



② 終始うつむいたまま、  
当風のいうがままに  
ひきこられていく  
「本部」派。



③ 更衣室 → 当直・点呼 → 機関車  
まで、ずーっと多くの白腕にとり  
囲まれて……。

スト破りに卒先協力する動労「本部」革マル分子と  
土屋一派を絶対に許さないぞ!!